

## 1 学校教育目標

考える子 思いやりのある子 鍛える子 よく働く子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<p>「子供が大切にされる学校」＝「信頼される学校」である</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の知を大切にする学校（学力定着と向上、自らわかる喜びと学ぶ意欲の達成）</li> <li>・子供の徳を大切にする学校（豊かな心、思いやりの心、いじめを起こさない心の体得）</li> <li>・子供の体を大切にする学校（たくましい体、自ら鍛える意欲、心身ともに健やかに育成）</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考 え る 子（基礎的基本的な学力と自ら学ぶ力や判断力を身に付けた子）</li> <li>・思いやりのある子（多様な考えを認め合い、他を思いやる心を身に付けた子）</li> <li>・鍛 え る 子（運動に親しみ、心身を鍛え、健康で安全な生活を目指す子）</li> <li>・よ く 働 く 子（自己責任を果たす態度や協力する態度を身に付けた子）</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として常識のある教師（服務に厳しく、誰からも信頼される存在）</li> <li>・教育公務員として専門性のある教師（児童理解、教材研究、指導技術を追究する存在）</li> <li>・教育愛と使命感のある教師（特別支援教育を理解し、推進できる存在）</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

- 国語教科書繰り返し音読の継続的实施や板書方法の改善（共書きの習慣化）など、基礎学力定着の基盤となる「言葉の力（＝文章を正しく読む力）」の育成に向けて授業方法の改善に取組み成果が得られました。児童の学習の様子にも変容が見られます。引き続き各教科を通して「言葉の力」の育成を進めるとともに、研究授業を中心とする国語の授業改善（説明的文章の指導）に取り組めます。読書指導のさらなる充実が課題です
- 足立区や東京都、全国の学力調査結果の分析に基づいて、児童がつまずきやすい学習内容の指導方法工夫・改善を図ります。SP 表を活用し、①多くの児童がつまずく学習内容、②特別な学習支援が必要な児童を把握します。AI ドリル等を活用して指導方法の最適化を図り、学校全体で組織的・計画的に基礎的学習内容の定着を進めていきます。特に、学習の積み残しが顕著な児童への指導の充実を図ります。
- 各教科の授業・学級経営・学校行事の充実を通して、自己肯定感・自己有用感の向上に取り組めます。「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査（hyper-Q U）」の分析結果を学級経営に有効活用します。
- 校庭・体育館の改修工事が完了しました。よい環境を十分に活用して、ケガの防止・体力増進に取り組めます。
- 保護者・地域との連携・協力の在り方を工夫し、開かれた学校づくりに努めます。学校ホームページをよりアクセスしやすいメディアに改善するとともに、学校メール配信システムやタブレットを有効に活用し、保護者との協力関係を強化します。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎

2	心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)	◎	◎	○	○	○
3	体の健康づくり(心も体も健全育成を図る)	○	○	◎	◎	◎

## 5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
国語・算数の基礎的・基本的な学習内容の定着		令和４年２月予備調査（現学年内容） 目標値の達成率 全学年 国語 80%以上 算数 80%以上							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象・ 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	説 明 的 文 章 に 関 す る 授 業 の 充 実	全学年・ 国語	通年	説明的文章指導の統一方式確立に向けて１８回の授業研究を実施。	・説明的文章に関する指導の手立ての共通理解と実施 ・２月予備調査結果	・国語を担当する教員全員が研究の成果に基づく授業を実施する。 ・全学年で国語の <u>平均正答率</u> を区平均以上にする。			
2	「言葉の力」を育てる指導の充実	全学年・ 全教科	通年	・全教員による共書き板書 ・「つなぎ言葉一覧表」の活用、及び、文の意味を正しく掴むためのことば指導を実施（教科を問わない）。	管理職による授業観察と指導・助言	・全教員が共書き板書と「つなぎ言葉一覧表」活用100%			

3	読書活動の充実	全学年・全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間2回の読書旬間毎に推薦図書リストを作成、活用する。</li> <li>・調べる学習コンクール3～6年生で参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の推薦図書を読んだ冊数</li> <li>・調べる学習コンクール入賞者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が学年の推薦図書を5冊以上読む</li> <li>・コンクールへの出品数</li> </ul>			
4	朝学習 パワーアップタイム	全学年 国語・算数	通年 週3回 (火・水・金) 8時25分～8時40分	<b>【指導体制】</b> 担任・専科教員 <b>【取組のねらい】</b> 学習に楽しさを感じさせるとともに、学習内容の定着を図る。 <b>【使用教材】</b> 各学年で年度当初検討する。「言葉の力」を高める学習活動や教材。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・A I ドリルを全学級完全活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上委員会によるカリキュラム開発と実施</li> <li>・各教室で管理職等による実施内容確認と児童観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A I ドリル100%活用</li> <li>・αドリル全学級活用</li> <li>・カリキュラムに準拠した内容での完全実施</li> </ul>			
5	放課後学習	区学力調査等で目標値未通過の児童(4層分析のCD層相当) 国語・算数	通年 週3回 15時20分から(低学年は下校指導後から) 25～40分間程度	<b>【指導体制】</b> 月・金は学年体制、火・木は各学級学年担当の専科教員が入り担任不在時カバーする <b>【取組のねらい】</b> 学習のつまずき解消 <b>【使用教材】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・C層児童にはA I ドリルを活用し、児童のつまずき解消に努める。</li> <li>・D層児童には教員による丁寧な個別指導を行う</li> </ul>	C層とD層の児童の国語・算数の基礎的内容の定着(2月予備調査)	2月予備調査達成率80%以上			

6	かけ算九九テスト	2年生～6年生	年間 2回7月と12月	【指導体制】担任 【取組のねらい】かけ算九九の完全な定着 【方法等】75%未満の児童は担任と算数少人数指導担当者が補習する。特に2年生は、A Iドリルを活用する。1月以降専科教員等が授業を支援し個別の対応を図る。	かけ算九九テスト（9月と12月）	2年生以上 学年かけ算九九満点率80%			
---	----------	---------	----------------	--	------------------	------------------------	--	--	--

重点的な取組事項－2		心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
充実感・満足感の高揚と、自己肯定感(低学年)・自己有用感(高学年)の育成		児童・保護者による意識調査 肯定的回答 85%以上			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
望ましい生活習慣の確立	・児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答 80%以上 ・遅刻が継続する児童を各学級 1 名以下に減少。	・「一歩一歩の学習のきまり」の徹底 ・「生活調べ」実施や遅刻調査等結果を指導に活用 ・学校だよりやメール配信システム等を活用した保護者の啓発 ・月ごとの遅刻調査からのフィードバック			

児童相互、児童と教員の望ましい人間関係の構築	・児童アンケート調査関連項目で肯定的回答 80%	・「hyper-Q U」の分析結果を学級経営に活用 ・相談箱や教育相談室の活用など教育相談活動の活性化			
いじめ等の早期発見と早期解決	・いじめ等発見後 1 ヶ月以内に解決する。	・いじめ防止基本方針の徹底 ・「刷一版トラブル対応マニュアル」のフル活用			
不登校の未然防止と早期解決	・不登校児童を前年比 70%に減少	・教職員間連携と、SC、SSW、チャレンジ学級との連携			
特別支援教室と学級との連携推進（発達障害等の理解推進）	・学級における指導と特別支援教室の整合性と一貫性の確保に向けた校内委員会（年間 10 回以上）	・校内委員会での情報交換と指導方針の共有 ・発達障害等に関する校内研修 ・ユニバーサルデザインの活用			

重点的な取組事項－ 3		体の健康づくり（心も体も健全育成を図る）			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	健康についての児童・保護者の意識向上と体力向上	児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答 80%以上			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

体力の向上	東京都体力調査項目で 区の平均以上。	・人工芝のメリットを生かした運動量と運動時間の確保			
体育授業等における運動量の確保とケガの防止	・体調不良による欠席者とケガによる保健室来室者の減少	・人工芝のメリットを生かした運動量と運動時間の確保（再掲） ・持久走記録会に向けた練習の充実 ・人工芝の特性の理解と安全指導			
オリンピック・パラリンピック教育の推進と充実	・児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答 80%以上	・運動選手による実技指導や講演会等の実施 ・福祉や国際理解に関する学習の充実			
健康づくりに関する児童と保護者の意識向上	・歯科受診率 60%以上 ・児童・保護者による意識調査 食育に関する項目で肯定的回答 80%以上	・メール配信システム等広報の活用による保護者の啓発 ・PTAや企業と連携した健康に関する学習の場の設定 ・栄養士・食育リーダー・養護教諭等の連携による食育指導の充実			

## 6 まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

（２）保護者や地域へのメッセージ

（３）その他（学校教育活動全般について）